

歴史民俗資料館だより

徳とっ利くり

天保一四年（一八四三）に刊行された『貞丈雑記』（伊勢貞丈が日々記載した雑録）には、以前は陶製の徳利はなく、錫で作られていたので、徳利のことを「すず」といったこともあるそうです。さらにその後書かれた記録によると、京や江戸では、白い色や淡藍色の一升入りや五合入りのものがあり、これで酒を買って持ち運んだと書かれています。

徳利は、口がすぼみ、胴が膨らんだ陶磁製の容器で古くは錫や銀製もありました。江戸末期には、これらは格式のある宴席で用いられ、現在ではガラス製（ピン）のものもあります。徳利の呼称は様々で文様形態から無地徳利・鶴首徳利などが用途から御神酒徳利（口元に近い胴の上半分が膨らんだもの）・船徳利（底が広く口が細く、船が揺れてもこぼれないように工夫してあるもの）などで、容量からは、一升徳利・五合徳利などがあります。元来、徳利は酒に限らず、酢・醤油・茶などの保存や運搬に用いる容器でした。酒徳利は、大別すると燗徳利と酒屋が計り売りの酒を入れて掛け売りするために貸し出した貧乏徳利とに分けられます。貧乏徳利は、酒銘・地名・通し番号を記してあり、一種の宣伝

伝容器で、出現は江戸時代の武家の間で始まったものと推測されます。広く普及したのは、明治以降のことで、ガラス瓶に代わる大正末期までの半世紀ほどの間でした。笠松では笠松湊があったことから造り酒屋が三軒あり、「笠松」・「笠松町」と、筆書きされたたくさんの方々の貧乏徳利が残されています。資料館では、民俗資料として紹介、展示しています。



館蔵品展

商いの道具 ～川湊を中心とした 商工業～

【会期】

9月22日(水)～
12月5日(日)

【開館時間】

午前9時～午後5時

【休館日】

月曜日

(祝日の場合はその翌日)

【入館料】

無料



笠松町歴史民俗資料館

〒501-6052 笠松町下本町87

☎388-0161 FAX388-0185

長良川流域市町村の『川文化ネット◇なごら』交流コーナー

13



富加町 御野國加毛郡半布里大宝式(702年)戸籍

富加町は長良川最大の支川、津保川の中流域にあり、町内で美濃加茂市三和町を源流とする川浦川が津保川に合流する場所に位置しています。

この川の恵みを受けることができる富加町には、遺跡などが町内のあちこちに分布し、太古から人々が住み続けていることを伺い知ることができます。

その中でも富加町は、奈良東大寺正倉院に保管されている、現存する日本最古の戸籍「御野國加毛郡半布里大宝式年戸籍」ゆかりの地として知られています。正倉院からは12通の古代の戸籍が発見されましたが、この半布里戸籍（はにゅうりこせき）は、ほぼ完全な形で発見され54戸1,119人の名前が記載されていました。

この半布里戸籍のレプリカが富加町郷土資料館に展示されており、古代の富加の様子について発掘調査の資料を交えながら分かりやすく展示・説明しています。

【アクセス】 長良川鉄道富加駅下車徒歩30分
東海北陸道関インター10km(車で約15分)
【問合せ】 教育委員会事務局(☎0574・54・2111 内線213)



御野國加毛郡半布里大宝式戸籍